



日本赤十字社

舞鶴赤十字病院



第23号

健診センターニュース

人間ドックや職場の健康診断などで、腹部超音波検査（腹部エコー検査）を受けた結果、「脂肪肝ですね」「腎臓に石があります」など指摘を受けたことがある方いらっしゃると思います。今回は、その「**超音波検査**」についてのお話です。

超音波とはどのようなものでしょうか？人には聞こえない高い周波数の音波です。自然界ではイルカが仲間との交信のために使ったり、コウモリが自分の位置を確認する手段として使うなど、多くの動物が超音波を出しあってコミュニケーションを取っていることが知られています。人が超音波を利用するようになったのは、1912年にタイタニック号が氷山に衝突・沈没したことにより、氷山発見のために超音波を使用することを考えたのが始まりといわれています。その後研究が重ねられ、現在では病気の発見のために超音波は利用されるようになりました。

「超音波検査」は、超音波の出ているプローブという機械を身体の表面に当て、返ってきた反射を画像処理化して体内の様子をみる検査で、臓器の大きさや形の異常、腫瘍、ポリープ、炎症、結石の有無などを調べることができます。

超音波検査の利点としては、人体に対する影響が無く、放射線検査で問題となる「被曝」の心配がありません。受ける人の苦痛が少なく安全なため、妊婦や胎児の診察にも用いられています。

腹部の超音波検査では、肝臓、胆のう、腎臓、膵臓、脾臓を中心に調べることができ、肝臓がんや発見が難しいといわれている膵臓がんなどを早期に見つけることができます。ただし、これだけですべてが分かるというわけではありませんので、血液検査やCT、MRIなどを合わせて総合的に判断することが必要です。

Q：検査の前はなぜ絶食が必要なのですか？

食事をすると、胆汁が排出され胆のうが小さくなり観察しづらくなってしまいます。水を飲むのはかまいませんので、医師から指示のある薬は飲んで大丈夫です。

Q：検査中に息を吸ったり吐いたりするのはなぜですか？

臓器は呼吸によって動きます。観察したい臓器が消化管のガスでよく見えない、見えにくい位置にあるといったときに、呼吸によって臓器を移動させ見えやすい位置を探します。体の向きを変えるのも同じ理由からです。

検査を受ける方が肥満の場合は、脂肪の層が厚く体の奥の方にある観察したい部位まで超音波が届きにくいいため観察に時間がかかることがあります。超音波検査をスムーズに受けるためにも、ダイエットは必要ようです(^^)



毎年10月は、乳がん検診の早期受診を促す『ピンクリボン月間』です。乳がんは、早期に発見し、早期に治療すれば治癒が目指せる疾患です。早期発見に有効な検査としては「マンモグラフィー」と「超音波検査（エコー）」があります。

「マンモグラフィー」は、乳房専用の装置でレントゲン撮影を行います。乳房を挟みながら圧迫して撮影するため多少痛みを伴いますが、しこりになる前の石灰化を映し出すことができるので早期発見に役立ちます。但し、乳腺だけでなく病変も白く映し出しますので、乳腺が発達し乳腺密度の濃い若い方では、病変を見つけにくい場合があります。

「超音波検査（エコー）」は、マンモグラフィーと同様、手に触れないしこりを見つけることができます。超音波検査は乳腺の密度に影響されませんので、乳腺が発達した若い方にも有効です。痛みもなく、放射線被曝も

ありません。しかし、良性の病変も拾い上げてしまうこともあるため、乳がんとの区別に注意を要します。

それぞれの検査に長所と短所がありますので、年齢にあった検査を選択することが必要です。

自治体の住民検診やご加入の健康保険組合の補助制度などを活用し、上手に組み合わせ定期的に検査を受けましょう。



〒624-0906

舞鶴市字倉谷427 健診センター

TEL(0773)75-1920

FAX(0773)75-7380

月～金 8:30～17:00

(土・日・祝日・年末年始12/29～1/3・創立記念日6/1はお休み)